

1. 指導目標

- ・自分に必要な支援等自己理解を深め聞こえにくい状況においてどのように対応すれば良いか考えることができる。【健康の保持 1－（4）】【心理的な安定 2－（3）】
- ・自分のきこえについて相手に正確に伝えることができる【コミュニケーション 6－（5）】

2. 児童の実態及び本単元における「自力解決する姿」

当日、配付・回収します。

3. 指導観及び児童に歩ませたい「追究のストーリー」

本題材は本児の「中学校生活が楽しみ。」という思いがきっかけである。毎回の授業で、お話タイム（最近のグッド・バッド）を設け、その週の良かったことや大変だったことについて振り返り、それを分かりやすく伝える時間をつくっている。また進学を見据え、1学期は長所や短所、性格といった自分自身のことをあらためて振り返る、小学校と中学校の違いを考え、今ある知識の中で比べるといった活動を行ってきた。また、そこから中学校について知りたいことや、不安なことを整理してきた。その際に出た多くの疑問を解決するにはどうしたらいいかに繋げ、実際にきこえの教室の卒業生である児童に聞いてみることを提案する。また、より具体的な疑問を持ったり、自分事として考えたりできるよう耳の構造や自分の聴力といったきこえ方に関する理解も深めていく。中学校生活に期待をよせている児童の思いや「こんな中学生になりたい」という願いを大切に、《私ってこんな人！「自分取扱説明書」をつくろう》というゴールに向けて児童が主体的に自分のきこえや必要な支援

についての自己理解を深めていく。

4. 本單元における「自力解決する児童の姿」に迫るための手立て、及び教材観

視点 思いや願いを持ち、見方・考え方を自発的に働かせた問題解決を促す手立て

(3つの手立て①単元構成の工夫 ②(1)場の設定の工夫(2)教材教具の工夫 ③視覚支援の工夫から)

① 単元構成の工夫・・・見通しをもち、目的意識を明確にして取り組んでいける単元構成

●「やりたい」と感じるゴールを設定【2－(3)】

中学校生活に対する期待や意欲の大きい児童の思いを大切に、「楽しい中学校生活を送るために」という目的を常に意識し活動に取り組ませるようにする。

また、「自分取扱説明書」を作るというゴールを設定し、学習(考える・調べる)したことを説明書にまとめていくことでゴールに近づいているという実感を持たせられるようにする。

② (1)場の設定の工夫・・・相手意識をもたせる場の設定【6－(5)】

●作った取扱説明書を担任や母親に見せたり、具体的な場面を想定し説明したりする

作った取扱説明書は担任に定期的に見せ、中学校の先生に内容が伝わるか、良い点や改善点について評価してもらうことで、先生が分かるように伝えようという意識や意欲が高まるのではないかと考える。また「先生」「友達」「先輩」といった具体的な場面を設定し、話す練習をすることで自分から「もっとこの説明が必要」「これでは分かりにくい」といった改善点を見つけるきっかけになると考える。

② (2)教材教具の工夫 ③視覚支援の工夫

●児童自身の検査結果の活用【1－(4)】 **本時**

自身聴力検査のオーディオグラムを使用することで、興味関心を持ち、自分事として学習にのぞむことができるようになる。

●実際に中学校に通うきこえの教室の卒業生にインタビューをする【2－(3)】

自分の予想や考えたこと、本等で調べたことだけでなく、実際に先輩の言葉を聞けるよう手紙を出す場を設定することで「調べても分からなかった～について知りたい・聞きたい」という思いを持たせられると考える。また、自分の考えと手紙の内容を比べることで、疑問の解決や新たな視点を持つことにも繋がるのではないかと考える。

●本やICTの活用【2－(3)】

中学校生活や耳の構造、難聴について小学生にも分かりやすく書かれている本を用意し、いつでも疑問について調べられるようにする。クロムブックも用意し、児童自身が、本とクロムブックどちらが必要な情報を得るために適しているか選択しできるようにする。また「自分取扱説明書」は本児が得意だと感じているスライドにまとめることで、意欲的に取り組めるようにする。

5. 単元計画

時間	《単元を貫く児童の意識》 <課題> まとめとふりかえり ○発問・児童の活動と意識	◆自立のめあて：6 区分 27 項目 ●視点：①②(1)(2)③
第一次 単元を見通す導入②	○聴覚障害についてどんなことを知っているかな 〈難聴って何かな・小学校で困ったことは何かな〉 ・耳が他の人より聞こえにくいこと。 ・補聴器を付けているし、ロジャーマイクを持っているよ ○難聴の人の聞こえ方はみんな同じかな ・それぞれ聞こえ方は違うと思うな。 ・でもどんなところが違うんだろう。 ○小学校で聞こえにくかったのはどんなときかな ・プールでは補聴器を外していて聞こえなかったから筆談をしてもらったよ。 ・英語も慣れるまで聞き取るのが大変だったよ。 ・中学校でより楽しく過ごすためにはどうしたらいいかな。 難聴について調べたり、自分のきこえについて考えたりして、自分に必要な支援について分かったことをまとめよう。そして中学校の先生に伝えよう。 《私ってこんな人！自分取扱説明書をつくろう》	◆学習の見通しを持ち、意欲を持って学習に取り組もうとする【心理的な安定（3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること】 ●ゴールの設定①
	○今いる「きこえの教室」と普段生活している教室できこえやすさは同じかな ・きこえの教室も 6 年教室も聞きやすさはそんなに変わらないと思う。でも 1 対 1 の方が聞き取りやすいな。 ・音が全くない状況はないんだ。何かしらの音があるんだね。きこえの教室でも○dB あるんだ。 ○学校できこえやすい場所・きこえにくい場所はどこかな 〈場所によってきこやすさはどう違うかな〉 ・6 年教室、音楽室、図書館・・・はよく使うね。図書館は静かだと思う。教室でどれくらい差があるのかな。調べてみよう。 教室ごとに音の大きさが違うんだね。場所によってもきこえやすさは変わってくるね。	●騒音の大きさの表を提示し、音の大きさのレベルを知る②(2) ●騒音計を使用し、教室ごとの音環境を調べる②(2) ◆周囲の環境によるきこえ方の違いに気づく【1 健康の保持(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること】

第二次 耳の構造や難聴の種類について知る②	○耳のことについてどんなことを知っているかな ・鼓膜があるね ・難聴の種類や聞こえ方は人によって違うと思うけど… 〈耳のつくりはどうなっているかな〉 ・外耳、中耳、内耳に分かれているんだね。 ・音は空気の振動から電気信号に変わるんだ。 耳のつくりが分かったよ。 音は電気信号になって伝わるんだね。 次は難聴の種類について勉強していこう。	●難聴や補聴器について扱っている本や動画を提示する②(2)③ ◆耳の構造について知る【1(4)】 ◆オーディオグラムの見方について知る【1(4)】
第三次 自分のきこえについて知る・難聴について調べる	○難聴はどんな種類があるのかな ・伝音難聴、感音難聴、混合性難聴の3種類があるんだね。 ・私はどれに当てはまるのかな。 ○オーディオグラムは見たことがあるかな ・前に、自分のものを見たことがあるよ。 ・スピーチバナナっていう範囲が聞こえると言葉が聞こえているということなんだね。 ・音の高さはHzで表すんだね。 ・自分のオーディオグラムはどうかな。 難聴の種類について分かったよ。 次は自分のオーディオグラムを見てみよう。	●耳のつくりや難聴について書かれた本、クロムブックを用意し選択して調べられるようにする ◆難聴の種類について知る【1(4)】

〈小学校できこえにくいときはどうしていたかな〉 ・なんとなく分かったから大丈夫かなと思ってそのままにしていたな。みんなの前では聞きにくいし…。 ・ロジャーマイクを渡していたよ。 ・音声を文字にしてくれるアプリもあるんだね。 聞こえにくい場面をふり返ったり、どうしたらよいか考えたりすることができたよ。 その場では無理でも確認することも大事だね。 中学校ではどうなんだろう。	◆自分の聞こえ方について考える【1(4)】
○1学期に、中学校についての疑問を出していたね。前の時間に振り返ったことをもとに、聞いてみたいことをまとめて手紙を書こう 〈○○さんに聞いてみたいことをまとめて手紙を書こう〉 ・中学校で楽しいと思うことを聞きたいな。 ・小学校と違って驚いたことは何かな。 ・勉強で大変だったことや気をつけていることは何かな。 ・疑問をまとめることができたよ。	●きこえの卒業生に質問する手紙を書く②(2) ◆中学校生活の見通しをもち、意欲を高める【2 心理的な安定(1)情緒の安定に関すること】
○手紙の返事が届いたよ。読んでみよう 〈中学校についての手紙を読み、どんなことがわかったな〉 ・中学校ではリスニングテストの仕方も小学校と違うんだね。 ・部活動がとても楽しいんだね。でもきこえのことは先生だけじゃなくて、部活の先輩にも伝えないといけないね。 小学校と違うところがたくさんあったよ。中学校がより楽しみになったけど、自分のきこえについて伝える人や、必要な支援も整理していこう。	●きこえの卒業生に書いてもらった手紙を活用する②(2) ◆中学校生活の見通しをもち、困り感の改善のためにどうしたらよいか考えようとする【2 心理的な安定(3)障害による学習上または生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること】
〈どんな支援が必要かな〉 ・リスニングテストの方法によっては、もしかしたら聞こえにくいかもしれないから、そのことを伝えておきたいな。 ・人数も増えるから座席の位置のことも伝えたいな。 ・伝えたいことを取扱説明書に書こう。 必要な支援について考えることができたよ 取扱説明書にもまとめていこう	◆聞こえづらいときにどうしたらよいか考える【2(3)】

第四次 学習を振り返り、 まとめる②	〈取扱説明書にまとめよう〉 ・これまでに学習したことをまとめていくよ。 ・先に自分の耳の特徴を書いておくといいね。 ・前まとめていた分も読み直して、スライドの順番も説明しやすくなるようにしよう。 ○どんな伝え方をしたらお互いに気持ちよく過ごせるかな ・「全部やってほしい」だと相手も大変かもしれない。 ・どこまで大丈夫か相手の言葉を聞くことも大切だと思う。 自分のきこえやしてもらいたいことについてまとめられたよ。これを参考に中学校の先生たちにも伝えられるといいね。 自分も相手も気持ちよく過ごせるような伝え方も考えていこう。	●スライドにまとめる③ ●作ったページを担当や親に見せ良いところ等について評価してもらう②(1) ◆自分のきこえの特徴や困り感の改善のためにどうしたらよいかまとめている【1(4)・2(3)】
第五次 伝える練習をする⑤	○小学校に入学したときはどうしていたかな ・お母さんが校長室で話していたよ。 ・私は横できいていたよ。 ・中学校では自分で伝えていけるようになりたいな。 〈先生以外に誰に伝える必要があるかな〉 ・新しく出会う友達。 ・部活動をするなら先輩にも伝える必要があるね。 ○説明してみよう 先生だけでなく友達や先輩にも伝えないといけないだね。説明してみたけど、うまく言えなかったから、伝えるように練習していこう。 ○先生に伝えるつもりで話してみよう 〈先生に伝える練習をしよう〉 ・英語では・・・体育では・・・教科によって伝えたいことが違うから気をつけよう。 ・先生に伝えるときはスライドも見せながら話したいな。 教科によって伝えることを整理できたよ。他の先生にも聞いてもらって分かりやすいかチェックしてもらおう。	◆場面を想定し、自分のきこえや必要な支援について話することができる【6 コミュニケーション(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること】 ●具体的な場面の設定②(1) ◆場面を想定し、自分のきこえや必要な支援について話することができる【6(5)】

	○友達や先輩に伝えるつもりで練習してみよう 〈友達や先生に伝える練習をしよう〉 ・友達には補聴器のことや左耳の方がきこえやすいことを伝えよう。 ・部活で何か指示があるとき、場合によってはロジャーマイクを渡すことも伝えようかな。 それぞれ伝えたいことが整理できた。質問されたときにも自分で答えられるようになるろう。	●具体的な場面の設定②(1) ◆場面を想定し、自分のきこえや必要な支援について話すことができる【6(5)】
	○もし先生や友達にきかれたらどう返したらいいかな (質問されたときに答えられるようになるろう) ・～してもらった方がいいな。 ・今のところこのままで大丈夫です。 質問に対して答えることができたよ。 練習しておくとお安心だね。	●具体的な場面の設定②(1) ◆場面を想定し、自分のきこえや必要な支援について話すことができる【6(5)】
	(学習を振り返ろう) ・自分のきこえについてあらためて考えたり、説明をしたりすることができるようになったよ。 ・困ったことがあったらその都度相談していくことが大事なんだね。 学習したことをいかして中学校も頑張りたい。 自分でどうしたらいいか考えたり、「こうしてほしい」「このほうが分かりやすい」と伝えたりしていこう。	◆これまでの学習を振り返り、中学校ではどうしていきたいか考えている【1(4)・2(3)】

6. 本時について

(1) ねらい

自分と健常者のオーディオグラムを比べることで自分のきこえの特性について理解し、聞こえにくい状況においてどうしたらきこえやすくなるか考えることができる

【健康の保持1－(4)】 【心理的な安定2－(3)】

(2) 展開

時間	学習活動	学習内容	指導上の留意点（＊支援／◎評価）	教材・教具
2	1 挨拶・本時の予定を確認する	・学習の見通しをもつ	＊一緒に予定を決めることで、学習への目的意識を持たせゴールを再度確認する	
6	2 お話タイム	・最近の嬉しかったことや大変だったことについて話す。	＊具体的に話すことができるよう 5W1H を意識させたり、質問をしたりする。	5W1H のチェックカード
30	3 きこえの学習	〈自分のきこえにはどんな特徴があるかな〉 ・自分の現在のオーディオグラム(補聴器あり・なし)と健聴者(教師)のオーディオグラムを比べる ・自分がきこえやすくなるコツは何か	＊前時に学んだオーディオグラムの見方を本時の初めに再度確認する。 ＊健聴者がどれくらいきこえているか予想させてから、結果を見せる。 ＊3つの結果を比べることで、補聴器の必要性を再確認したり、きこえにくいときの対処法を考える必要感を持たせたりする ＊第一次で学習した生活環境を想起させたり、自分ができること、周りにして欲しいことの視点考えさせたりする	児童と健聴者の検査結果 気づいたこと・考えたことを書き込むワークシート
5	4 まとめ・ふり返り	わたしは、左耳の方がきこえやすいことは知っていたけど、数値でみるとこれだけ差があるんだね。少し高い音が聞こえにくいみたいだ。きこえやすくなるコツとして、静かなところできく、ロジャーマイクを渡してそれに話してもらおう、左側にきてもらったりするといいな。		
2	5 次時の学習の見通しを持つ・あいさつ		◎自分と健聴者の比べ、自分のきこえの特徴を調べたり、きこえにくいときの対処法を考えたりしている	